

日本語・ベトナム語の依頼談話の一考察

— 依頼談話展開パターンによる談話の丁寧度の差 —

NGUYEN THI LAN ANH

上原 聡

東北大学大学院国際文化研究科

galatdat1910@yahoo.co.jp

uehara@intcul.tohoku.ac.jp

1. はじめに

私達の日常生活において、相手に対して自分のために何かをしてもらおうとする依頼行為は頻繁に行なわれている。相手とのコミュニケーションを円滑に行うことを前提に、心理的または実質的に行為を実行するかしないかの選択余地を相手に与える。それにもかかわらず、「依頼」は聞き手に何らかの負担をかける行為であることは間違いない。したがって、「依頼」を行う際に、話し手にとっては、「依頼」内容を達成するほかに、聞き手に不快な思いをさせない配慮が必要なのである。

本稿は会話場面での日本語・ベトナム語の依頼談話のそれぞれ典型的な構成を明らかにするために実際の依頼談話を調査し分析する。まず、依頼談話の基本的構造はどのような要素から構成されるか、どのように談話を展開していけば円滑で効果的なコミュニケーションが可能になるのかをそれぞれの言語の先行研究をもとに検討する。次に、談話がどのように展開すると丁寧だと感じられるかという点について、談話の丁寧度によって検討する。

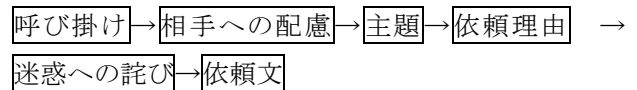
これによって、ベトナム語話者が落ち入りやすい日本語依頼表現の間違いの要因を明らかにする。ベトナム語話者が日本語を知っているだけでなく、母語干渉の問題を制限し、実際の日本語依頼談話をうまく使えるようになるのが本稿の最終の目的である。

2. 日本語の依頼談話

2.1 依頼談話の展開パターン

日本語の依頼の展開パターンについて、川成(1993)、李(2002)、などが述べているが、その中に柏崎(1995)が依頼には次のような要素から構成されるとして

いる。



2.2 依頼談話の特徴

柏崎は依頼談話には特に次の三つの特徴を重視している。

* 話しかける時は、用件内容を突然述べ始めるのではなく、呼びかけなど相手を話の場に引き込むための何らかの働きかけを行ってから用件に進んでいる。相手の注目を喚起するためである。

* 前置き表現は、用件内容が相手に与える負荷の程度の影響を受けているようであった。簡単な内容の場合や場面から容易にわかる場合には軽く発せられるが、負担が掛かりそうな内容や複雑な内容の場合にはゆっくり伸ばしぎみに発せられたり、ポーズを置いて相手の様子を観察したりした。

* 複雑な用件内容で主題を提示せずですぐ具体的な内容を話し始めると、相手を驚かせたり用件が伝わりにくく、負荷が大きい。聞き手の負担を少なくするためには、具体的な内容に先立って、用件の主題を述べるべきである。

2.3 談話構成の違いによる丁寧度の差

柏崎(1995)は同じ依頼文を有しているが展開パターンが異なる談話間に丁寧度の差があるとしている。低丁寧度の依頼文を有する談話間で比較したところどの対にも有意差が認められ、丁寧度評定が高くなっていると述べている。談話対は、談話を構成する要素がそれぞれ異なっている。このことから、依頼談話展開のパターンの違いが丁寧度評定に影響することが示された。

2.3.1 談話レベルで丁寧度を捉える重要性

柏崎 (1995) は次の二つの分析結果から依頼談話の丁寧度を文レベルではなく談話レベルで捉えるべきであるとした。

* 同じ談話パターンで依頼文が異なる場合

また、柏崎 (1995) によると、単文レベルで依頼文自体の丁寧度が違っても談話展開のパターンが同じであれば、談話全体の丁寧度には大きい差が見られない。

* 談話レベルでより高い丁寧度を得る場合

依頼文の丁寧度が低い場合であっても、それを含む談話の展開の仕方次第で、談話全体のレベルでは高い丁寧度の依頼文を有する談話よりも丁寧に感じられる (柏崎 1995)。

3. ベトナム語の依頼談話

3.1 依頼の展開パターン

呼び掛け部分 + 補助部分 + 主依頼部 + 補助部分

(Vu 1995)

3.2 依頼談話展開による談話の丁寧度の差

調査方法：

本稿では柏崎 (1995) の研究を中心に参考にしながら、ベトナム語の依頼談話について次のようにアンケートを行った。

被験者：

在東北大学・宮城教育大学 (仙台) のベトナム人の留学生 20 名

談話の状況：

「ワープロを打っているが、使い方がよく分からなくなったので、少し離れた席にいる男性の先輩に使い方を尋ねるところである。先輩は机に向かって仕事中である。」という場面を設定した。

談話の状況について簡単に説明してから、テープレコーダに録音しておいた談話を聞かせ (文字による提示はない)、自分が感じた丁寧度を五段階で評定させ (5 が最も丁寧)、談話毎に質問紙に記入させた。

課題：

談話の構成要素の組み合わせによって、談話を 8

種類用意した。ここで、談話の構成要素とは、呼びかけ、依頼の理由、相手への配慮、依頼文 (丁寧度が高い文/低い文) である。各談話条件の構成要素の有無は表 1 に示している。

依頼文レベルの丁寧度に関して、5 名のベトナム語話者を対象とし、予備調査を行ってきた。この結果から、「Anh chỉ cho em cách save văn bản này với!」 (お兄さんは私にこの文章の保存し方を教えて下さい) の命令形の依頼より「Anh có thể chỉ cho em cách save văn bản này có được không?」 (お兄さんは私にこの文章の保存し方を教えてくださいか?) 可能疑問形の依頼の方が有意に丁寧とされている。前者「Anh chỉ cho em cách save văn bản này với!」を丁寧度の低い文 (以下「低依頼文」と呼ぶ)、後者「Anh có thể chỉ cho em cách save văn bản này có được không?」を丁寧度の高い文 (以下「高依頼文」と呼ぶ) とみなし、他の構成要素と適宜組み合わせた。

談話と構成要素の例 (会話 E)

A 「anh Hà ơi ,bây giờ anh có bận gì không ?em nhờ một chút có được không ?」
お兄さん+名前 ね 今 お兄さん 忙しい 何 疑問語? 私 頼む ちょっと できる 疑問語
「ハーお兄さん、今お兄さんは何か忙しいですか?私はちょっと頼めますか?」
→ 呼びかけ + 相手への配慮 1 & 2
B 「ừ、 được thôi」
ええ、できる よ
ええ、いいよ
A 「Anh chỉ cho em cách save văn bản này với!」
お兄さん 教えるに 私 し方 保存 文章
この 命令形を表す終助詞
「お兄さんは私にこの文章の保存し方を教えて下さい」
→ 低依頼文

3.3 分析結果

表 1 に平均値を示し、平均値の小さかった談話、す

なわちより丁寧ではないとされた談話からより丁寧 ことにする。
 と感じられた談話へと、順に談話A～談話Hと呼ぶ

表1 談話別の丁寧度平均値と談話の構成

談話		A	B	C	D	E	F	G	H
丁寧度の平均 (5点満点)		1.41	2.17	2.33	2.51	2.57	2.85	3.17	3.33
構成要素 の有無	呼びかけ	○	○	○	○	○	○	○	○
	相手への配慮1	×	○	○	×	○	○	○	○
	相手への配慮2	×	○	×	×	○	×	×	○
	依頼の理由	×	×	×	×	○	○	×	○
	依頼文の丁寧度	低	低	低	高	低	高	高	高

← (気楽な) ———— 丁寧度 ———— (丁寧な) →

3.3.1 展開パターンの違いが談話の丁寧度評価に与える影響

依頼談話展開のパターンの違いが丁寧度評定にどのように影響するかを考察してみよう。談話対は、低依頼文を用いる談話と高依頼文を用いる談話はそれぞれの構成要素が異なっている。

表1をみると、同じ低依頼文を有する談話B-C間で比較したところ、談話Bのほうが談話Cより一つの要素(相手への配慮2)が多くても、丁寧度がCより低いと見られた。

また、同じ高依頼文を有する談話F-G間で分析してみると、談話Gが談話Fより依頼の理由という一つの要素が減っても、丁寧度が高いと考えられた。

そして、談話E-H間で、全く同じ展開パターンだが、高依頼文を有する談話Hのほうが低依頼文を有する談話Eより丁寧度が高いと示している

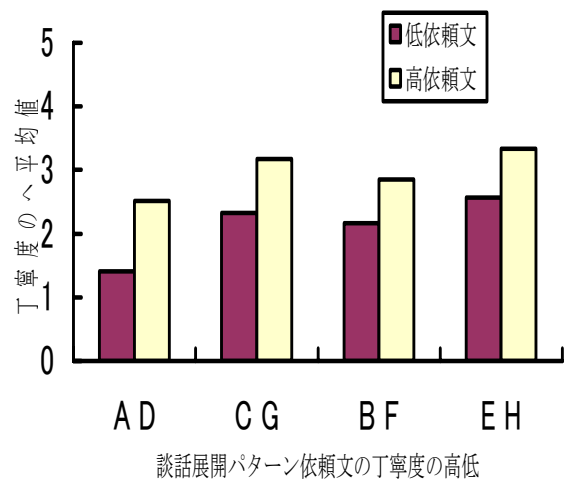
このことから、展開パターンが間接(構成要素が多ければ多いほど)であればあるほど談話全体の丁寧度が高くなるわけではないことが示された。

3.3.2 同じ談話パターンで依頼文が異なる場合

談話パターンは同じだが、談話に含まれる依頼文の丁寧度のみ異なる談話の比較を行おう。そこで、談話A-D間(呼びかけのみを有する談話)、談話C-G(呼びかけに加えて相手への配慮1を有する談話)、談話B-F(加えて相手への配慮2)、談話E-H(加えて依頼の理由)で、それぞれ丁寧度の対間比較したところ、かなり差が見られた(図1)。

この結果は、談話展開のパターンが同じであっても、単文レベルで依頼文自体の丁寧度が違えば、談話全体の丁寧度には差が見られることを示している。

図1 同じ展開パターンで依頼文の丁寧度だけが異なる談話の丁寧度



4.3.3 高い丁寧度を得る依頼談話

表1を見てみると、高い丁寧度を得る談話(F・G・H)は高依頼文を有するものである。つまり、

どのように談話の展開を行っても、談話全体のレベルでは依頼文の丁寧度が低い場合より高い丁寧度の依頼文を有する談話のほうが丁寧に感じられている。

4. 考察

日本人は何かを依頼するとき、お互いの関係の確認後、「ちょっとお願いしたいことがあるんですが」というなど「相手にかける迷惑の程度を示して、相手の不安を軽くする同時に、構えを作らせたり、相手が察して要求表現を口に出さなくてもすむようにしてくれる状況を作り出す」というようなストラテジーにかなり共通性が見られる。つまり、談話の展開パターンは依頼談話の丁寧度にかかなり影響を与える（柏崎 1995）。しかし、これは日本社会の特徴ではないだろうか。日本人はコミュニケーションを行う時、自分より周りの人への配慮と立場を考えているようである。それで、丁寧なコミュニケーションを得るために、会話に参加する人物の社会的地位（ジェンダー、年齢、職業など）や話者と相手の関係（親疎）などに基づいて、適切な表現及び談話展開を選択しなければならない。

逆に、ベトナム人は生まれてから、家族・学校などの環境では話者と相手の年齢上下の基準を中心にするコミュニケーションを教えられる。それで、ベトナム人はこのようなコミュニケーションを重視し、話者の教育レベルと人格を評価する基準になる。これによって、ベトナム人は何かを依頼する時、直接に依頼発話に入って、主題・迷惑のお詫びなどの依頼発話の前後の要素はほとんど使われていないと思われる。よって、依頼発話の前後の要素の有無は依頼談話の丁寧度に大きく影響を与えないと見られている。

5. 終わりに

前節では、先行研究を参考にしながら、日本語とベトナム語の依頼談話の展開パターンを見てきた。日本語には単文レベルでみた依頼文の丁寧度の違い

よりも、むしろ談話がいかなるステップを踏んで進んでいくかという談話展開のパターンの違いが談話の丁寧度に影響を与えるということが示された。日本語では単文レベルだけではなく談話レベルで言語行動を促える必要がある。これに対して、ベトナム語には談話の展開パターンよりも、依頼文の丁寧度は談話の丁寧度を決定すると考えられる。

今回では、データの数は少なかつたため、依頼の展開パターンの違いによって、談話全体の丁寧度の差が大きく見られなかった。今後、今回の結果を確認するために、データを増やす予定である。一方、依頼の構成要素についてそれぞれどんなものがあるか、どんな機能を用いるか（特に依頼文を中心）を考察し、その中にどんな要素が談話の丁寧度に大きく影響を与えるのかも明らかにする。

謝辞

本研究は、平成 17 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (No. 15520241) の補助を受けて行われています。

参考文献

- 井出ほか 1986『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂
- 岡本真一郎 1986「依頼の言語的スタイル」『実験社会心理学研究』26、47-56
- 北尾 S・キャスリーン 1993「ポライトネス—人間関係を維持するコミュニケーション手段」『日本語学』13
- 柏崎秀子 1995 「談話レベルで捉える丁寧さ—談話展開が丁寧度評定に与える影響—」『日本文化研究所紀要』1号 61-75
- 李善子 2002「中国と日本語における談話の構造分析—依頼を中心に—」『比較社会文化研究』12
- Cao Xuan Hao 1991 『Tieng Viet - so thao ngu phap chuc nang』(ベトナム語—機能的な文法基礎) Nha xuat ban giao duc. (教育出版社)